

# 研究指導の概要

## ■ 生命産業科学学位プログラム

【課程：博士後期課程】

学年	学期 モジュール	研究内容及び指導方法等	
1 年 次	春	A	入学ガイダンスを行い、本学の教育理念、教育方針について説明したのち、当学位プログラムにおける人材養成目的及び3つのポリシーについて説明を行う。また、ネットワーク利用や実験廃棄物の処理等の事項についても教育する。その後直ちに指導教員を中心とした3名以上の教員からなるアドバイザー・コミッティを構築するとともに、履修計画を策定する。同時に研究テーマの設定を行い、 <b>生命産業特別研究IA</b> の履修と連動して研究指導を開始する。
		B	必修科目として <b>国際生命産業科学特論</b> を履修させ、国際的な生物資源の産業利用に関する課題解決を図れる調整力・指導力を身につけるとともに、様々な国の多様な留学生との積極的な交流と議論を促す。本講義は英語で行われる(日本語禁止)。
		C	<b>生命産業科学セミナーIA</b> を通して生命産業科学の各専門領域に関する論文を調査、講読させ、論文読解能力を高めるとともに客観的な評価を行う能力を養成する。
	秋	A	引き続き研究指導を行うとともに、 <b>生命産業特別研究IB</b> 、 <b>生命産業科学セミナーIB</b> を通して生命産業科学の各専門領域に関する論文を調査、講読させ、論文読解能力を高めるとともに客観的な評価を行う能力を養成する。特に評価の過程に重点を置き、セミナーで発表を行い討論することでコミュニケーション力を高める。当該研究分野の現状についての認識を深め、自己の研究の位置づけを明確にする。
		B	<b>生命産業規制論</b> 、 <b>生命産業技術移転論</b> (受講任意、隔年開講)において、外部講師を招き、研究開発を行う上での法制と実務、安全性及び効果についての検証及び承認プロセス、及び知的財産権の保護や動植物・遺伝資源を有効に活用したバイオ科学技術を産業に移転する方法、施策、関連する条約等を学ぶ。
		C	年度末までに、1年次で達成すべきコンピテンスを満たしているかについて、確認・指導する。
2 年 次	春	A	6月をめどにアドバイザー・コミッティによる中間評価を行う。研究内容のプレゼンテーションとコンピテンスシートをもとに研究の進捗状況の確認と学修達成度を確認する。また必要に応じて研究テーマの修正や追加履修等の指示を行う。
		B	<b>生命産業科学セミナーIIA</b> を通して生命産業科学の各専門領域に関する複数の英語論文を調査、講読させ、語学力、論文読解能力を高めるとともに、客観的な評価を行う能力を養成する。
		C	<b>生命産業特別研究IIA</b> を通して内外の研究開発動向を適切にとらえた課題設定を行い、新技術や知的財産権等の創出に寄与し得る高度な研究開発能力を身につける。これらを基盤として、博士の学位に相応しい研究成果をあげる。主に投稿論文作成に向けた基礎的指導を行う。主として研究指導教員を含むアドバイザー・コミッティが指導を行い、他の教員がサポートする。
	秋	A	<b>生命産業科学セミナーIIB</b> を通して生命産業科学の各専門領域に関する複数の英語論文を調査、講読させ、語学力、論文読解能力を高めるとともに、客観的な評価を行う能力を養成する。特に英語能力に重点を置き、セミナーにおいて英語で発表を行い、討論することで国際的なコミュニケーション力を高める。当該研究分野の現状についての認識を深め、自己の研究の位置づけを明確にする。
		B	<b>生命産業特別研究IIB</b> を通して、引き続き内外の研究開発動向を適切にとらえた課題設定を行い、新技術や知的財産権等の創出に寄与し得る高度な研究開発能力を身につける。これらを基盤として、博士の学位に相応しい研究成果をあげる。主に投稿論文作成に向けた基礎的指導を行う。主として研究指導教員を含むアドバイザー・コミッティが指導を行い、他の教員がサポートする。
		C	年度末までに、2年次で達成すべきコンピテンスを満たしているかについて、確認・指導する。

学年	学期 モジュール		研究内容及び指導方法等
3 年 次	春	A	<p><b>生命産業科学セミナーⅢA</b>を通して生命産業科学の各専門領域に関する最新の論文を調査、購読し、論文読解能力を高める。論文内容の調査だけでなく、自己の研究内容についてもまとめてセミナー形式でプレゼンテーションし、討論することで当該研究分野についての認識を高める。自己の研究の位置づけを明確にして博士論文作成にあたるように指導する。また、セミナー全体の司会進行、調整を行い、それを相互評価することで、マネジメント力、技術指導力を培う。研究に必須な研究倫理について再度 十分理解させる。この時期までに原著論文の受理を目指して論文作成、投稿を行い、査読対応や修正等の指導を行う。</p>
		B	
		C	
	秋	A	<p><b>生命産業科学セミナーⅢB</b>を通して、引き続き自己の研究内容についてもまとめてセミナー形式でプレゼンテーションし、討論することで当該研究分野についての認識を高める。自己の研究の位置づけを明確にして博士論文作成にあたるように指導する。また、セミナー全体の司会進行、討論の誘導、意見の調整と取りまとめ方に重点をおき、マネジメント力、技術指導力を培う。</p>
		B	<p>学位論文審査に向けてアドバイザー・コミッティによる指導を行う。10月ごろに公開の発表会を行ったうえでコンピテンスシートを確認し、達成すべきコンピテンスを満たしているかについて、確認・指導する。その後予備審査をおこない、論文構成や研究能力・知識を博士の水準に達しているかを評価する。合格後、教員4名以上(うち1名は学位プログラムが指定する他分野の教員)による論文審査委員会を発足させ、論文審査にあたる。</p>
		C	<p>最終審査までに達成すべきすべてのコンピテンスを満たしているかについて確認する。</p>